



①信長公は、軍事施設である城に客人を案内するなど、独創的なおもてなしを行いました。

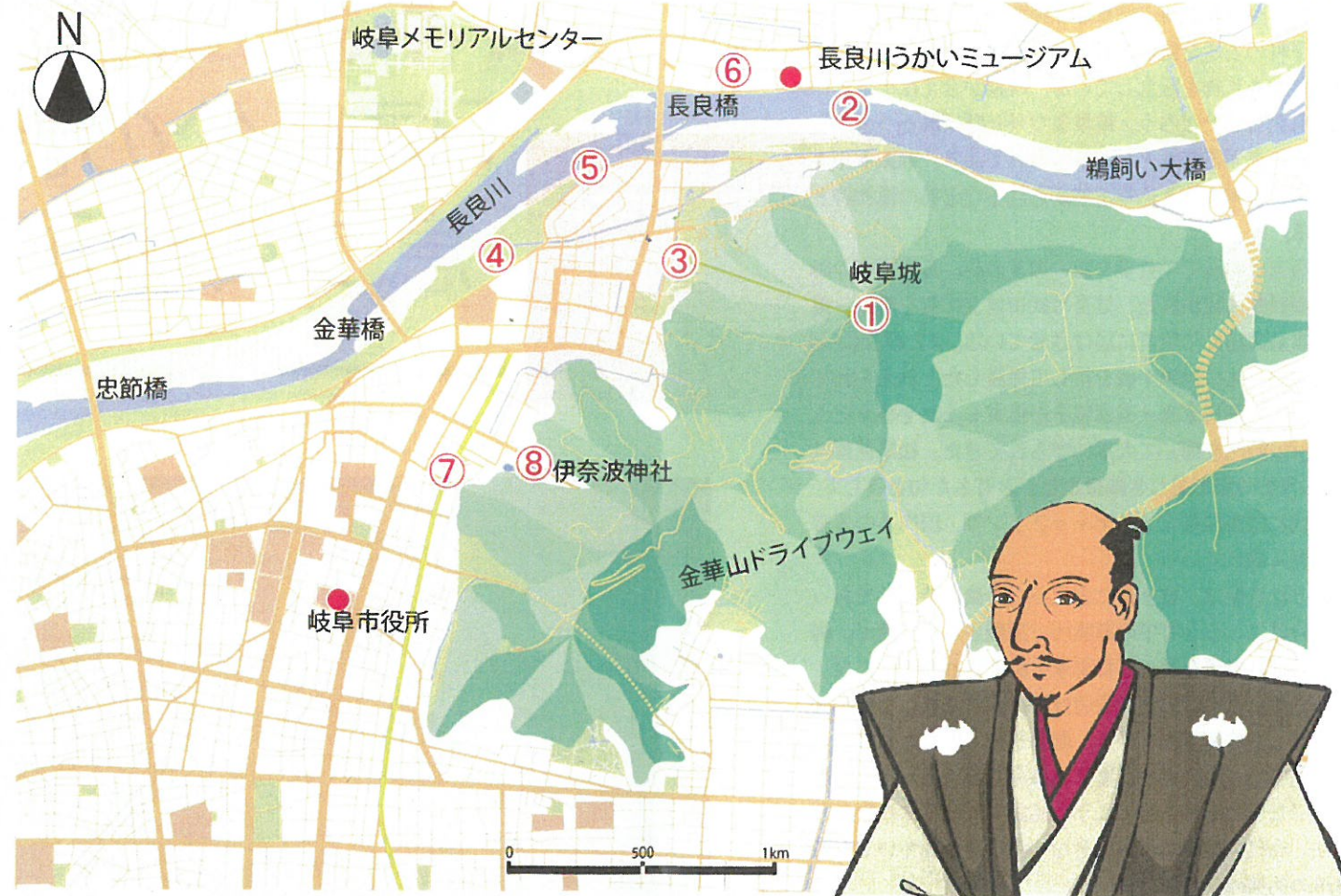
祝・日本遺産  
認定！！



## 「信長公のおもてなし」 が息づく戦国城下町・岐阜

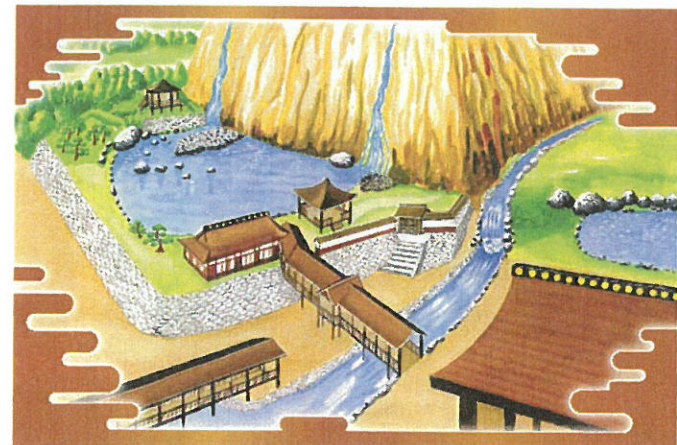
岐阜城を拠点に天下統一を目指した織田信長公。カレは戦いを進める一方、城内に「宮殿」を建設。最高のおもてなし空間を創り出します。その様子はまさに「地上の楽園」のようでした。冷徹なイメージを覆すような信長のおもてなしに、ワタシ達もすっかり魅了されたのです。

金華山、長良川、そして城下町の賑わい…信長公のおもてなしのカタチは、日本人の価値観を感じられる『おもてなし文化』として、現在の岐阜市観光の骨格をなしています。



②鶴飼観覧と舟遊びは一体のものとして親しまれてきました。

信長公は鶴飼を接待の場として用い、「鶴匠」の名称を与えて保護したと伝えられています。



③山麓には巨大庭園を持った迎賓館が造られました。「宮殿」の屋根は金箔瓦で飾られていたようです。料理のおもてなしでは、信長公がみずからおかわりをよそってくださいました。



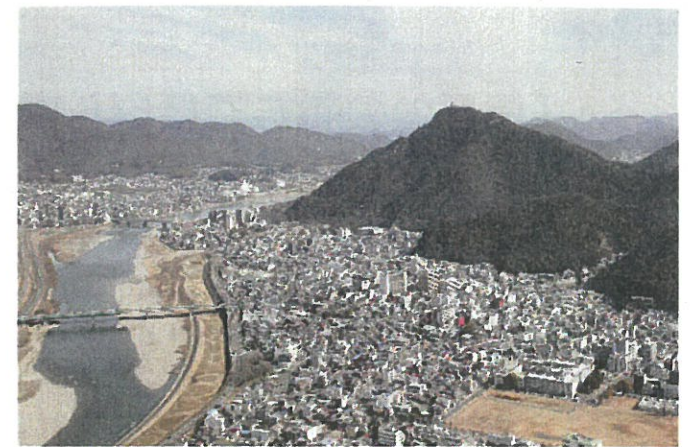
牡丹文



菊花文



⑧岐阜まつりは町を代表する祭礼です。時期が合えば当時の来訪者も見物したでしょう。



④「長良川中流域における岐阜の文化的景観」信長公のおもてなしの舞台となりました。



⑤「川原町のまちなみ」現在も独特の白木格子が続く町並みが継承されています。



⑥古代から献上品として珍重されてきた鮎鮓の製造技術は現在も鶴匠家に伝えられています。



⑦「御鮓街道」江戸時代に鮎鮓を江戸まで運んだため、こう呼ばれるようになりました。